

## はしがき

本報告書は、「社会と基盤」研究会・岩手調査班のメンバーが実施してきた岩手県大船渡市を中心とする東日本大震災とその社会的対応に関する調査の報告書です。

東日本大震災の研究は、ジャンルを超えてさまざまな角度から行われてきましたが、本共同研究の特徴をひとつあげるとすれば、研究メンバーが共同で地域の中に滞在し、フィールドワークや現地の資料調査を駆使し、総合的な角度から地域社会の性格を浮き彫りにする共同地域調査の手法をとっていることです。

もともと、変化の激しい現代社会では、地域とは固定的な共同体の範囲にとどまらず、外部との関係の中で変容し、作り直されていくものでもあります。東日本大震災とはまさに災害の渦中におかれた地域とそれをとりまく外部の社会との関係、被害が生み出される真の意味での「フィールド」とはどこなのかを問いかけた出来事でもありました。地域社会を調査する営みもまた、こうした、現代社会を取り巻く複雑な論理と無関係ではられません。

本研究が、あくまでも、現場に身を置く体験を重視しながら、同時に、公表された大量のデータを通じて災害後の重層的な時間の経過に迫ろうとしたこと、あるいは、内陸を経由して被災地と全国の都市を結ぶ後方支援のネットワークに焦点を当てようとしたことなども、こうした課題への対応のひとつの試みといえることができるでしょう。

調査は継続中ではありますが、震災から3年目という時点におけるドキュメントとして、それなりに意味のある記録になっているのではないかと考えています。東日本大震災が地域社会に何を刻み、そのことがまた地域社会のどのような再創造をうながすのか、揺れ動く現実と地続きの場所に立つ記録者として、これからも、見つめ続けていきたいと思えます。

本報告書は、困難な状況の中、調査に応じてくださった、多くのひとびとの協力がなければ決してありえませんでした。そのみなさまに、この場を借りて心から感謝を申し上げます。

なお、調査実施にあたっては、独立行政法人日本学術振興会科学研究費・基盤研究(B)「グローバル化以降における資本制再編と都市<ヒト・モノ>関係再編と統治性の研究」(2011～14年度)(研究代表者・町村敬志)を使用したことを付記しておきます。

2014年 3月

「社会と基盤」研究会・岩手調査班  
統括 山本唯人

### ●お問い合わせ先

「社会と基盤」研究会

〒186-8601 東京都国立市中2-1 一橋大学大学院社会学研究科 町村研究室内

電話・ファクス 042-580-8642 電子メール t.machimura@r.hit-u.ac.jp

URL <http://sgis.soc.hit-u.ac.jp/>